

Jakarta, Cikarang & Bandungの 生活環境の近況 —2021年2月—

編集
梶谷 昌博 (1956年卒)



情報提供：左から

内原 正司 (64年卒・元Jakarta在)
丹羽 慎吾 (75年卒・元Cikarang在)
高岡 容子 (87年卒・現Jakarta在)
坂口 広之 (88年卒・現Bandung在)

最新のYouTubeで見るJakartaは、市の中心部に高層ビルが林立し、綺麗な市街地・道路・都市高速鉄道(MRT/LRT)も整備されつつあり、その発展振りには目を見張るものがあります。

一方その発展繁栄は一部に留まり、近接地は未整備のままであるなどの問題も抱えています。しかし遅いながらも確実に発展して来ています。ASEAN諸国の中で最大の人口を擁するインドネシアは日本にとって最も重要な友好国です。

そこで、生活環境関連についての情報収集を思い立ち、長期駐在から昨年帰国された内原氏と丹羽氏、現在インドネシアに滞在中の高岡女史、坂口氏に参加をお願いし近況をまとめました。ご参考にして頂ければ幸いです。〈梶谷〉

【インドネシア概況】

『リーマンショック以降、中間層が増え一人当たりのGDPが4千ドルを超えたりでmotorizationが始まり、インドネシアの人々の顔付きが変わってきました。この変化は肌で感じましたが、その後の発展は鈍化しているようです。交通渋滞、洪水問題、首都移転、労働争議、労働法改正、反汚職、KPKの弱体化、教育、宗教、税法、規制改革など多くの問題を抱えているのは確かですが、インドネシア・ジョコウィ頑張れです』〈内原〉

Q1. 上水道整備状況は如何ですか？

A1. Jakartaには上水道(PAM=水道局)があり水道代は安い。特に外国人の居住が多いKebayoran Baru地域には上水道が整備されていますが、飲料水(煮沸しても)には不相当です。殆どの日本人はAQUA等のペットボトル水を飲むか、デイスペンサーを使用しています。洗いやシャワーにはPAMと井戸水を汲み上げて使用するのが主流です。

鹿島建設が開発したSenayang Residenceもペットボトル・デイスペンサー利用です。

一昔前は、井戸水をくみ上げ一旦煮沸し冷蔵庫で保管して飲んでいたので、よく下痢になっていました。今は、改善されて飲料水による下痢は殆どありません。ただ、地下水は年と共に黄変するのでとても飲めたものではありません。

バンドンは西ジャワ州の州都でJakartaから南150KM、標高約800m人口200万人超で、繊維関連企業の日本人も多く居住している常春の都市です。スカルノ大統領が卒業したITB(バンドン工科大学)は特に有名です。

『私の知る限り皆さんはAQUAなどボトルでガロン売りのものを飲んでます。我が家では煮物料理などもアクアを使っています。

我家の水(地下30mからの汲み上げ水)を調べてもらったら、たまたま透明で質がいいとのことなので、マンディや洗濯にはそのまま使っています』〈坂口〉

Q2. 下水道関係の整備は如何ですか？

A2. 私の知る限りでは、私達の住んでいる住宅地は全て敷地内での浄化を経ての地下浸透型です。

Q3. ライフラインの電気について、停電の頻度などは如何ですか？

A3. 停電は昔と比較して非常に少なくなりました。私が住んだ住宅街(スンジャヤ・パンリマポリム)は殆ど停電がありませんが、非常用自家発電電源を備えていました。パソコン用電源にはStavol(スタボル:自動電圧調整器)を使うようお勧めします。

Ejip等の日系の工業団地は、「チカランリストリン」(民間電力業者)と契約して、電力供給を受けているため滅多に停電はありませんが、多くの企業は非常用電源だけは備えています。一昔前まではインドネシアに進出する場合は自家発電装置設置が常識でしたが、この点の改善は目覚ましく、新規の進出企

業は停電しないのが当たり前だと思っています。

『バンドンでは今も時々停電がありますが、停電時間は長くて3時間ぐらいです。家庭で自家発電設備を持っているのはごく一部の金持ちです。しかし、予期せぬPLNの短時間の停電があったりするので、工場には自家発電設備は必須です』〈坂口〉

Q4. 家庭用都市ガスの整備具合は如何ですか？

A4. ホテルや競技場があるSenayangの一部や、一部の工業団地では都市ガスが使用されていますが、殆どは個別にエアリキドのようなガス会社と契約するか、LPGを大型/中型/小型のボンベで買っています。家庭も同様ですが供給サービスに問題はありません。

『バンドンも各家庭はLPGのボンベです』〈坂口〉

Q5. 通信手段は如何ですか？

A5. インドネシアでは固定電話や携帯電話を飛び越して、スマホ等の近代的なシステムを採用したため、インターネット利用など、ある面では日本より進んでいるように思われます。中国製や産地不明の安い製品が出回り、そこそこ上手く使っています。

『現地の人は、上流はiPhone、中上流は韓国製、Xiaom等中国品を、中流以下の人達は中国の格安製品を主に使っているようです。Internetは4Gですが、繋がりにくい時もあり、日本より優れていることはないようです』〈坂口〉



Q6. マスコミ:テレビやラジオは充分楽しめますか？

A6. 契約すればTVのchannelを増やせます。若い人は結構楽しんでいるようです。

『無料で視聴できる一般放送のチャンネル数は少ないですが、安い有料プログラムを利用すれば観れるチャンネルは相当数あります。ラジオは車内でBGM代わりに流すだけのものですが、チャンネル数など詳細については存じません。』〈坂口〉

Q7. 都市交通機関は整備されていますか? 交通渋滞や大気汚染の現状は? (Kebayoran Baruから大使館までの所要時間は?)

A7. Kebayoran Baruから大使館辺りまではMRTで20~30分程です。(特殊区間でMRTが上手く利用できますが、駅の出入り口キップの買い方等に慣れるまで一苦労です。)

車では普段は30分程で行けますが、朝夕の交通渋滞時には2時間程かかります。

『当地で自家用車が無い人たちの移動は従来パイ

クタクシー(Gojek等)かタクシー(Blue Bird等)が主でしたが、近年、アプリを使った安い登録個人タクシー(Grab等)の登場によって、流しのタクシーは滅多に見なくなりました。コロナ禍以降は多くの人が不要な外出をしなくなったこと、また狭い車内での感染の恐れから、多くの人がGrabさえも利用しなくなり、多くの個人タクシーが開店休業状態や廃業に追い込まれているようです。今では移動は一部Gojekへの回帰(オープンエア)があり、比較的 안전한イメージですが、誰が使ったか分からないヘルメットを被ること、雨だと濡れるなどの難もあるようです。今一番盛んなのは自宅から出ずに日本のウーバーイーツのように宅配で注文するようです。その結果、従来のタクシー・バイクタクシー業界も「人を運ぶ」から、今後も一層の需要が見込める「物を運ぶ」にシフトしています。』〈坂口〉

【インドネシア・特にジャカルタの交通事情について】

インドネシアには、前述のように交通渋滞、労働争議、汚職、等々問題山積ですが、特に、毎日通勤に数時間も掛かるクレージーな渋滞問題は殆ど人災と言えます。

首都遷都にも関係しますが、遷都を考える前に賢明な都市計画を実施せよと言いたい所です。土地の広さが限られているため上に伸びるしかない。従って、現状の如く高層ビルが増える。これは仕方のない事でしょう。問題は、Jakartaの場合、高層ビルをよく見て下さい。全てとは言わないまでも、殆ど周りに道路がなく、むしろ高層ビルを建設することによりビルの周りを閉鎖してしまい、益々渋滞が増している事です。遥かに車両数の多い東京と比較して何故Jakartaはこんなに渋滞するのか、一つは、全体の道路面積が少ない事、そして、これは今から実施する事は無理かも知れませんが、幹線道路が全く整備されていない事です。道路、建設関連法規がどうなっているか不勉強でよくわかりませんが、今からでも遅くない。即刻、道路、建設法規を整備し、特に新規ビル建設は周辺道路の建設を義務付けるべきです。今のように全て一方通行の上、決められた場所



特集【Report & Guide】

でUターン、これでは車両の走行距離を伸ばし渋滞を増進させるだけです。関係大臣は、勉強/研究の為に先進国へ視察に行っているようですが、その結論が実現不可能な遷都では何をか況やです。(喜ぶのは中国だけ?)現状のままでビルが増えて行けば益々渋滞悪化に繋がります。皆さんどう思われますか? <内原>

【ジャカルタでは上に伸びるしかありません】



市街中心部の10階建て超一流百貨店・屋上高級住宅街の外観



百貨店の奥の所は高級住宅街、プールも見えます

Q8: 医療レベルは日本と比べてどうですか。衛生状態はどうですか?

A8: インドネシアで高齢者が生活する場合の最大の問題点は医療だと思います。現在立派な病院がSiloam、ポンドックインダ等がありますが外国人医師の診察が承認されず、重症の場合は感染症を除き日本ととなります。健康に自信がありインドネシアに骨を埋めるといふのなら別ですが覚悟が必要です。Singapore/Australiaへの搬送があり得ますが、費用時間等でお薦めではありません。衛生面では改善されたとは言ふものの基本は昔と同じであり良くなったとは言えません。生鮮食料品も手に入りますが高価で品薄です。

『衛生面は年々改善されていますが、日本と比べるとまだまだ不十分です。多くのインドネシア人は未だに公衆衛生という観念が足りないです。医療状況は上記に内原さんがご指摘の通りインドネシアに長期居住する日本人にとっても最大の懸念です。大きな持病を持っていて何かあるとすぐ病院に駆け込む必要がある方にとってはインドネシア長期滞在はリスクが非常に大きいと思います。救急車も利用できませんがサイレンを鳴らしていても交通渋滞で全く前に進めない状況を何度も見えています。今はコロナで交通量が格段に減っていますので大丈夫ですが。』<坂口>

Q9: 情報収集はどこで出来ますか?

A9: 生活情報収集はジャカルタ新聞、日本人会、大使館等で収集できます。

Q10: 大使館・ジャパクラブ・日本人緊急連絡網等は充分ですか?

A10: 日本大使館は邦人の安全に万全を期しています。コロナ、労働争議デモなどの注意事項が通達され大使館のHPに掲載されています。ジャパクラブ(JJC)は1970年に設立されインドネシア最大の日本人コミュニティです。日本企業を代表する組織邦人部会(商工会議所)と個人部会(日本人会)として活動しています。また、海外邦人安全対策連絡協議会等が設置されていて、歴代会長の中には南十字星会会員も居られます。

Q11: 日本人学校への通学・スクールバス・学力評判等は如何ですか?

A11: 【Jakarta】には1980年設立されたJJS(日本人学校)がTangerang地区にあり、小・中学の生徒数が1,053名(2019年度)です。スクールバスも完備していて充実した教育で高い学力が評判です。また、付属幼稚園もあります。

【Cikarang】には2019年設立のCJS(日本人学校)があり、小・中生106名(2020年度)。

【Bandung】には1933年設立1977年再開の日本人学校があり、現在は、小・中生24名(2019年度)在籍です。

『バンドン校は生徒数が極端に少ないため、夏祭り・餅つき大会などのイベントは生徒父兄だけでなく在バンドン日本人有志も積極的に参加して盛り上げています』<坂口>

Q12: 飲食、買い物、飲食街・飲食店・レストランなどは?

A12: インドネシア料理・中華・和食・洋食とラインアップは豊富です。体験者からの情報収集がお勧め

です。買い物は

「Shopping Thamrin City」「Senayang City Malls」「Shopping Jakarta」の3大モール、日系パピヤスーパー 3店舗など10大手スーパー、日経ローソン等のコンビニがあり何不自由なく買い物出来ます。但し、値段・品質はマチマチで馴染みのお店を見つけておきたいですね。

『レストランについては、華僑、印僑人口が多い為、中華料理とインド料理の充実度が高く、値段も比較的こなれている感があります。洋食は日本に比べると人気は低い様に見受けられ、高級店はホテル内が中心で絶対数が限られ、中級層が少ない様になります。一方で和食は広く人気があり、高級店も手頃な店も選択肢は豊富です。食材については、昨今の世相もあり健康への関心が高まっている為、オーガニックや健康上の効能を謳った食材・食品の供給者も増えています。輸入食材は流通許可を始め種々ハードルがある為、品切れ商品の補充には時間がかかるケースが散見されます。買い物はかねてよりオンラインショッピングの利用度が高かったところへ、コロナ禍で拍車がかかった感があります。大手ショッピングサイトの「Tokopediaはインドネシアのアマゾンとも呼ばれ外国人も多数利用しています。』<高岡>



Q13: Cashless化は日本よりも進んでいるようですが、どうですか? (札束を持ち歩く場合は、治安上不安はありませんか?)

A13: キャッシュレス化は日本よりも進んでいます。全て現金決済の人もいます。

『カード決済は日本より進んでいるように思います。特にコロナ後は現金払いを受け付けず、カード決済オンリーの店も増えて来ました。』<坂口>

Q14: 街の治安については如何ですか?

A14: インドネシアではdisiplin(規律正しさ)の欠如や一部の人の失うものは何もない極悪犯罪や、付和雷同や紛争便乗と暴徒化、外国人への羨望と反抗心、麻薬・嫉妬からの毒盛り等は今や普通の国並みです。(ブラジルでは最悪で、殺人犯罪が増えているそうです)

平和と超良質な治安ボケしている日本人は充分注意する必要があると思います。

Q15: 殺人・強盗などの極悪犯罪が多いですか? (悪人グループ、犯罪組織、麻薬組織等反社会的集

団がありますか?)

(予防策として、いざと言う時に役に立つ方法を考える必要がありますか?)

A15: Jakartaは相変わらず犯罪は多いです。昔より一段と極悪化しているかもしれません。

麻薬組織もあると思います。しかしご承知の通り「麻薬は極刑なので日本人は甘く考えないことです。保険の為に警察OBや警備会社と仲良くしておくことは良いと思いますが、よく人を選ぶことをお勧めします。襲われる日本人もそれぞれです。インドネシアで生活する以上はお世話になっている、インドネシアが好きだという精神があれば、襲われることはないと思います。またDisiplinについては、殆どのインドネシア人は欠乏していることを認識していて、むしろ日本人から学びたいと言う姿勢だと思います。

ここで大事なことは、先ず日本人自身からdisiplinのある行動をせよと言うことだと思います。少しニュアンスが違いますが、私の最初のTanjung Priok発電所の工事現場に駐在するに際し上司から何があっても絶対無断でインドネシア人の肩より上を触るなど言われたことを今でも覚えています。大切なことです。

『A.バンドンは、治安面は比較的安定していますが、空き巣やスリなどは普通にありますので、日本人のゆるい警戒心ではやられる恐れがあります。ただ中南米のように銃を使った犯罪は極めて少ないので、命まで取られることは滅多にありません。対日感情は従来どおり非常に良好です。これは我々の先輩の方々がインドネシアの人たちに与えてきた好印象が土台になっているので、先人への感謝を忘れてはいけません。<坂口>

『B.問題を解決するには、何かにつけてお金が必要な国ですが、警察関係者の知人を作っておくことは役に立ちます。日々の小さな問題位なら解決に助力してくれますが、以後も関係が切れぬように定期的に付け届けなどした方が良いでしょう』<坂口>

Q16: 街中でのスリやユスリはありますか?

(昼間や夕方の繁華街でのスーパーや夜20時以降の買い物、同飲食街、同歓楽街、気を付けるべき服装、相手によりsombong(高慢)な態度をとる等について教えてください。)

A16: スリは相変わらず多いようです。警戒し過ぎたり、キョロキョロするのも要注意です。とにかく隙を見せないことです。誰にでもどんな時にも「Sombong」は絶対ダメです。SombongやKamuと言われたら帰国したほうが良いと言われるくらいで

特集【Report & Guide】

す。それ故、日本人は年下の人にも「Kamu」と言わず「Anda」との言い方が良いです。

『例外的に、高級モールなどで、家族連れの買い物客を装った身なりの良い新手のスリが出るケースがあるので要注意です。』<高岡>

『スリ・強盗などに遭わないようにするには、まず、そのリスクがある場所や時間帯をさけることが鉄則であり、そうしない人はリスク覚悟の行動なので自業自得です。どんな服装をしても、現地の人には我々が外国人（金持ち？）であることはすぐ分かります。

それ故に、極めて派手な服装は控えましょう。』<坂口>

Q17：住宅街での犯罪と警察や警備会社の対応は如何ですか？

A17：Kebayoran Baruでは昔からの隣組制度、シスカミリン等が健在です。犯罪が起きても警察はあまりあてにならないと思います。警備会社は良い会社を選択するのが重要です。

『バンドンの私が住む住宅地では、守衛(住民から毎月集めるお金で給与支払い)以外に管轄のbapinsa (bintara pembina desaが周回してガードしています。<坂口>

Q18-1：労働争議：労使関係・待遇要求は？

(労働争議、デモやその暴徒化はどうか。大使館や新聞等で要注意警報がありますか？)

A18-1：スハルト政権が代わった後、問題なのが労働争議です。振り子の揺れ戻しで、スハルトに押さえつけられていた労組がスハルト崩壊後、好き勝手にやりデモ・暴徒化しています。労働法改正と労働争議を抑えないと投資はやって来ません。最近最低賃金をフォーミュラベースで決めるようになってから、少し大人しくなったように思われますが、松下の労組委員長をやったイクバル、オボンと言う連中がガンだと聞いています。

『大使館からはデモ・暴動情報などは逐次入ってきます。今はインターネットの時代ですから、大使館情報、ジャカルタ新聞を待たずとも簡単に情報が拾えますが。労働関係のデモは賃上げ時期前の季節の風物詩のような感じで行われています。最近では反オムニバス法デモで暴徒化した地域が多くありましたが、今は誰もオムニバス法など忘却の彼方です。これも同じで、危険な場所や時間に近づかなければ難は逃れることができます』<坂口>

Q18-2：各企業で日常茶飯事的にフリンジベネフィットなどの要求や抗議活動がありますか？

A18-2：企業によっては頻繁に起きています。イージー

に要求を受けてはいけません。日系のトップは3~4年で交代するので、受けがちですが、厳しくやらないとダメです。その辺の兼ね合いが非常に難しいですね。

『バンドンでは、日系企業は、ストを起こされたり、新聞沙汰になったら厄介なので出来るだけ穏便に済まそうとするために、労働者側の要求を無視することは難しいですがローカル企業は経営者側が非常に強い対応を取ることが多く労働人口の多いインドネシアでは労働者側の売り手市場にはなかなかありませんね。<坂口>

Q18-3：各企業で表立った労働争議やストやデモがよくありますか？

A18-3：46時中あちこちで起きています。話し合いで上手く行っているようでも争議が起きているケースもあります。労組と妥協するのは大変です。

Q19：宗教上の主義主張や過激な原理主義と首謀者問題は難しいでしょうね？

A19：宗教問題はスカルノ・スハルト時代から変わりません。今後も続きます。過激な原理主義者は嫌な連中で、同じ回教徒のインドネシア人も嫌っています。

Q20：対日感情は如何ですか？(以前からインドネシアの人達は独特の人懐っこさや素朴さがありました。インドネシアでの生活を通して不安感はありませんか？)

A20：日本人に対してインドネシアの人達は昔と同様に非常に友好的です。これまで不安感や帰国したい等と感じたことは殆どありません。一部政府関係者やチェンダナ(スハルト元大統領の私邸のあったJalan Cendana からスハルト親族) 関連では少し不安感があったかもしれません。

『インドネシア人は大半ムスリムですが、どの宗教に対しても、日本人が生半可な知識で宗教議論を現地の人とすることは避けるべきです。思わぬことが彼らの宗教観・人生観を傷つけたりする場合があります。一般的にインドネシア人は人なつっこい人が多く、有難いことには、日本人には総じて好意を持ってくれますので、我々が同じ目線でオープンに友だちになることは比較的簡単です。時々日本人駐在員の中には上から目線で「バカな人達」という態度で接しているのを見ることがありますが、当地の人は決してバカではなく相手をよく見ているので、そういう人は裏でぼろくそに言われています。先人が努力して作ってくれた日本人の良いイメージを我々の代で台無しにしないようにしなければなりません。<坂口>

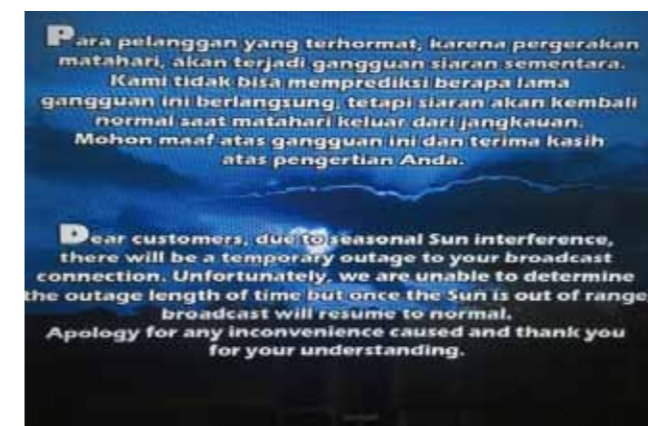
Q21：Cikarang地域の状況について教えてください。

【Cikarang地域：Jakarta市中心部より東へ30~35km。良く整備された新興住宅街、近隣工業団地等勤務の日本人居住者も多く、日本人学校もある】

『私はチカランで日系企業が建設運営していたサービスアパート暮らしていましたので、日本での生活と何ら変わりませんでした。アパートに隣接して日系のスーパーがあり、また二棟ある建物の一棟には日本料理店が別の棟にはイタリア料理の店がありました。また住居者用にアパート内には広い共同浴場があり、朝早くから浸かれたので日本の温泉に行ったような気分でした。事務もプールも付属していて快適な生活でした。私にとって30~40年前に駐在した時の違いを感じたのは通信の発達でした。サービスアパートではNHKの放送を見ることを出来ました。放映権の関係でスポーツニュースは静止画面になったり、画面の4分の3が隠されたりしました。衛星放送ですので年に二回ほど電波が太陽の影響を受けて受信できない時がありました。



開発中のマンションの広告



衛星からの受信状況が悪くなった時の字幕



日本のTV放送が受信できます

けれど日本のほとんどすべてのTV放送を同時に見ることができるサービスがあるのです。それは月3千円程度でサービス会社と契約するものです。私は加入していませんでしたが、若い部下や友人たちは加入していてよく日本の番組の話をしていました。また日本の書籍は紀伊国屋書店がありますが本数が少ないです。でもこれも電子書籍やアマゾンで購入して読むことができます。YouTubeも受信できますしLineで日本の家族とテレビ電話もできます。通信の発達は素晴らしいものがあります。40年前には家族との連絡は手紙でした。それも配達事業が悪いので確実に届いたかどうかを確認するために手紙に連番を打ってやり取りをしたのを思い出します。なお、今回帰国して思うのは日本ではスーパーに食材が豊富にあり、安いということです。』<丹羽>

その他：英語の普及とIndonesia語の必要性重要性・日系企業と中国企業の雇用問題等・目に見えて来た中国の侵略・Bandung-Surabaya間の高速度鉄道などの関心がある諸話題に付いては次の機会に譲ります。

以上





【最近の政治・政策の概況】

ルフトパンジャヒタン等ジョコウイの右腕ともいうべき人との確執もあると聞かすが、スハルト時代と異なりスリムリヤデイ財務大臣と部下のテクノクラートの作る予算等は、原油価格、ドルとの交換レート、その他の主要指標が実態に即しており、堅調と言える。

問題は、相変わらず汚職の撲滅、貧困層の撲滅、2003年労働法13号の改定、イスラムとの調整等である。ジョコウイはオムニバス法で労働法の改定を目論んでいるが、労組も黙っていない。ジョコウイも2期目(2019～2024年迄)に入り発言力が増し、周りに意見を進言する人が少なくなっていると聞く。(内原)

(1) インドネシアへ進出の日系企業：

日本とインドネシアの末永く仲良く、政治的・経済的に共存共栄して行く上で、進出日系企業の役割は極めて重要である。

【進出日系企業の概要】

ごく大雑把に言って、日本にとって、インドネシアは経済的には全世界中で7～10位。一方、Indonesiaにとって、日本は常に3位以内にある。実感はもっと緊密のようであるが。

進出日系企業数約1,500社。在イ邦人約2万人 (在日イ国人約5万)

日系企業に關係する雇用数=470万人(2016年)~720万人(2018年)

【1.5倍増でフォーマルセクターの12.9%】

日本のインドネシアへの直接投資額=10年間で425億ドル Singaporeに次ぐ2位。日系企業による年間輸出額=440億ドル

【16年の18%から24.4%まで輸出貢献度を高めた】

日本企業の経済価値=インドネシアのGDPを基準とすると18年：8.5% 859億ドル **【16年6.1% 525億ドルから向上】** 電力開発(新規能力の約5割)でも貢献。人材育成=18年には25万人以上のインドネシア人従業員が、1万人の職業訓練高校の生徒が、日系企業の技術的な研修に参加した。

(以上、じゃかるた新聞・ジャカルタ ジャパンクラブ (JCC) (2019/9)より)

Q1-1. インドネシアにおける日本企業の重要性・存在感・評判はどうか？

インドネシアの人は上記の数字のような日系企業の重要性を認識してくれているのでしょうか。

A1-1. インドネシアの日本人に対する国民感情は現在も問題ない、日イの多くの留学生等が、これまで築いて来た人脈を辿り益々交流を深めることが重要です。

Q1-2. イ国内生産・雇用面で、日系企業は中国等他国と比べどうでしょうか？

A1-2. 雇用の面では、ざっくり言って数の上では中国が多いかも知れないが、違法が多い。日系にも劣る所はあるかも知れないが、殆どの日系は厳しい労働条件を厳守し、従業員に本音を聞いてみるとよくわかるが、評判は良い。但し、日系に入った以上、既得権として労組を通じて更なる好条件を要求するのはインドネシア人の習い。全体として、日系のイメージ、評判は悪くない。



Q1-3. 日本として改善すべき点、注意すべき点。

A1-3. あまりないと思う。むしろインドネシア側が、日本企業が安心して経営出来るような国際的にも公平な法の整備・秩序ある雇用関係の維持に注力して欲しい。さもないと外国企業の投資や進出意欲を損なうことがある。この点はインドネシア政府も気付いているが、イ国内全般に労使関係は上手く行っていないと思う。disiplin, gotong-royng, kompromi等に欠けているのではないかと思います。

(2) インドネシア語の必要性・重要性について：

その国の言葉を勉強し習得し使うことは、「外交等公的必要性は言うまでもないが、『相手の国を心から尊敬し、理解し、愛し、相手国語を使い、正しく言いたいことを伝えることにより信頼を得る等。英語では引き出すことが出来なかった根本的な部分を知っていくためにも重要である。』」とされている。

現在、日本では20以上の大学でインドネシア語の講座があり、毎年約3,300人がインドネシア語検定試験を受けている。一人でも多くの人々がインドネシア語を使えるようになって欲しい。更には、日常会話とはもかく、公的に正しく通用するインドネシア語を使える日本人は少ないとか、日本人のインドネシア語は古いとか聞くことがある。これは素直に改善すべきであろう。



一方、インドネシアでは英語教育が大変熱心で、日本人よりも相当レベルが高いと思う。また、日本に留学したインドネシア人は総じて日本語が上手である。日本語のレベルが高い人も多い。これ等は日本の大学では授業・試験や論文で日本語を必要としていること等も関係していると思う。(Pursadaの第一副会長イスマジハジスマルトさん等は日本語が非常に上手で、あらゆる分野で通用すると思う。) 従って、日本としては、インドネシア語専攻のようなより高いレベルの教育をより多くの学生(募集人員増員)に行う必要がある。また、留学等に国・大学・企業等の奨学金等の積極的な支援も必要だと考える。

【日本語を勉強している人が多い国は：(2019年) 中国95万人・インドネシア74万人・韓国55万人オーストラリア35万人・台湾22万人・米国17万人・ヴェトナム6.5万人・等】

Q2-1. インドネシアでの日常生活・日常会話には、インドネシア語はどの程度必要ですか？

A2-1. 日常生活・日常会話には、例えば、外国人が日本で普通の生活する上で必要とする日本語と同程度のインドネシア語を話し理解出来る必要があります。普通に勉強していれば、現地ですぐに慣れて立派に通用するようになります。(註) (大卒後、直ぐに使える外国語はインドネシア語とスペイン語だけと聞いたこともある)

暫くは下手でも、謙虚な姿勢で一先懸命インドネシア語を話そうとすることは好感を持たれます。粗雑で尊大なのはいけません。時々、sombongやkasarな日本人が居て、malu dan bosanです。そんな日本人は「即帰国せよ」です。

Q2-2. 次に会社やBusinessではどうですか？

A2-2. 残念ながら、英語が主流になっているのではありませんか。私達が接するインドネシア人は小学校から英語を習い特訓されている人が多いので、得意な英語でとなります。従い、我々もある程度以上の英語を使えるようにならなくてはなりません。

それでも、実情は、英語が不得意な人も多く、幸いなことに、親切で我慢強くインドネシア語で対応し呉れる御仁もいます。(日本では、一般的に、インドネシアの人が日本語が上手になるよう出来るだけ日本語で対応している)。その辺を上手く折り合いをつけなくてはなりません。インドネシアにいる以上は、Businessでもインドネシアの人がインドネシア語で話して呉れるくらい上手になりたいですね。



Q2-3. インドネシア語は唯一の公用語ですから、公的な場合やお役所との折衝や手続きではかなり高いレベルのインドネシア語が必要だと思いますが、どうですか？

A2-3. 公的な場では正式な専門の通訳が必要です。お役所関係もインドネシア語ですから通訳を必要とします。但し、インドネシア語専攻は普通の大学のインドネシア語勉強とは違うのですから、直接にあるいは通訳も出来るようになりたいですね。そうすると、民間ではその様な人が少ないそうですから、大変重宝がられます。

尚、手続き等ではある程度英語で行けるところもあります。

(3) 対中国問題：

オーストラリアのハミルトン作家・評論家・公共倫理学教授著「Silent Invasion (目に見えぬ中国の侵略)」が大きな反響を呼び、オーストラリアは対中国政策の転換を行っている。日本でも北海道・森林・水資源・中国の千人計画の研究者・尖閣諸島・沖縄で中国の支配下のお店が多くなっている等々問題を抱えています。



Q3. インドネシアでは対中国問題はどうですか？

A3. 中国：中国の「一帯一路」、AIIBによる見掛けは好条件での融資、中身は返済不能を待ち中国のものにしてしまうという攻勢が功を奏し、石炭を始め資源獲得、そしてご存知のバンドン高速鉄道の日本からの横取りなどやっている。インドネシアは気付いているもののプラボオ等中国寄りに見える大物政治家もおり一筋縄では行かない。

更には、スマトラ始め多くの森林はシンガポールを始め中国資本がパーム油攻勢をやっている。パームは煙害、土壌破壊、自然破壊の何者でもない。パームをやめインドネシアは真の農業開発を日本とともに始めるべきである。ゴム等も然りかもしれない。ここにこそ日本は出るべきであろうと思う。これ等の中国の動向を正確に報道されるべきだと思う。



【補足説明】『もともと、インドネシア経済は多くを華僑に握られていたが、インドネシア化でなんとか治まっている。スカルノ末期には、あわや、毛沢東にハッパを掛けられたPKIの支配になりそうになった。直近では、ナツナ島の領海・漁業問題等で対立している。

それにも拘らず、中国の進出侵略は鉱物資源・電力・農産物・商業・不動産・移民して定住等々の全

分野で着々と進んでいる。これは中国の覇権・当該国の重要分野の支配・携わる人は、物凄い数の一刻千金追求型から何とか就労を求む未発展地域の農民工のような失業者まで、その為には自分さえ良ければ何をしても良い、進出のriskや損は国(税金)が見るので個人には関係がない・等々によるものである。このままで歯止めはかからないだろう。

インドネシアはどうするのでしょうか。現状の一例が上記A3.の通りである。』

(4) Jakarta-Bandung 高速鉄道と Jakarta-Surabaya 高速鉄道：

日本を蹴落とし、建設資金負担が軽減に見える中国が受注したBandung 高速鉄道は、2016年着工2019年完成予定が大幅に遅れている。インドネシア側はBandung 高速鉄道をSurabayaまで伸ばし、日本(Jakarta-Surabaya 720kmを時速160kmで従来の約半分の5時間半にする計画の事業化調査を2020年末までに行うことで合意済)を共同事業体に加えると言い出した(非公式)。一方で、2021年1月12日にスラバヤ高速鉄道に中国に資金面での参画を持ちかけている。(別の面では中国の領海違法漁業・Indonesia船員の死傷問題等対立していることも多いにも拘わらず)

Q4 現地での日本側の反応はどうですか？

A4. ジョコウイは恥ずかしながら暗礁に乗り上げたバンドン高速鉄道のスラバヤ延伸を日本に持ちかけているが、日本は絶対に受けてはならない、うまく断るべきである。根本的な構想もなく、中国は日本のPSをインドネシアから手に入れ甘言で受注したが、案の定大幅遅延、うまく行っていない。これの延長に日本が入ったらろくなことはない。融資計画も信用出来ない中国のもの、又、バンドン高速鉄道とその先のスラバヤへの線路幅は異なり技術的にも困難。中国はプロジェクトが駄目になり融資が焦げ付いても問題はない、日本軍の満州鉄道のように乗っ取るだけ、寧ろ中国にとってはその方が良い。

『皆さんは、これらの中国とインドネシアのやり方を見てどう思われますか？』



【編集後記】

ご協力頂いたお四方と、会報掲載用に助言と協力頂きました小原さん、有難うございました。

(1) 実は、今回の特集(前編も含む)が、既存の著書等と重複したり、二番煎じでないことを確かめるため、以前に読んだ著書を含め下記(順不同)の著書(残念ながら最新改訂版がない)に目を通しました。その結果、本特集は、全く心配することなく、視点も違う熱心な素人の生の最新のReport & Guideとして多くの方に参考にして頂けると幸いです。

[参考参照関連著書]

- 佐藤百合著：経済大国インドネシア (アジ研) 中公新書 2011年
- 村井吉敬他著：現状インドネシアを知るための60章 (エリア・スタディーズ) 2013年 【インドネシアの全てわかり辞書にもなる(松野明久先生も9-30事件について出筆されている)。最新改訂版が欲しい。】
- じゃかるたに暮らす (同編集委員会：JETRO) 2001年 【大変便利で重宝である故、最新改訂版があれば、在ジャカルタの方も携行がおすすめです】
- 加納啓良著：インドネシアの基礎知識 (株・めんこ) 2017年
- 倉沢愛子著：インドネシア大虐殺
- 水本達也著：インドネシア・多民族国家という宿命 (中公新書)
- 飯山陽著：イスラム教の倫理

(2) 日伊の一層の共存共栄のためには、インドネシアは資源から人材迄分野が広いこともあり、関係者を増やし、出来るだけ多くの人に携わって頂くことであると考えます。就中、大阪大学外国語学部インドネシア専攻の募集人員を増員し、一層の教育の充実(政治経済関係の研究等も)をお願いし、多数の人材を育成し輩出して頂くことであります。

(3) そして、年齢等の制約限度のある私達に、果たして、どんなお手伝いが出来るかを考えてみました。a. 今回のように、会報等でインドネシアの近況や状況等の諸情報を発信する等、機会を捉えて、日伊経済・企業活動やインドネシア専攻等についてのPR(合わせて優秀な学生を獲得のためにも)のお手伝いを。尚、大学にもお願いをして、以前松野先生のTimtim問題等の発信頂いたように、専門分野での研

究を充実し、発信し、世間の関心・注目を集めるようなこともお願いしお手伝いをしたい。

b. 大学のインドネシア問題等についての研究や講義とその発信のお手伝い、即ち、今回の特集のような情報の提供と発信する。また、自薦他薦(無報酬を含む)の講師による研究や経験談・人生教訓等の講演(コロナ禍が治まってから)。一例ですが、岡崎の丹羽さんの2020年11月20日国際粉体工業展での講演【アジア4か国に駐在して】(インドネシアを含む駐在した国々、何故駐在するか、見える壁見えない壁、等)。宮崎さんの香料諸島物語と日本人の海外進出。等々下記の付録に掲載してみました。

c. 日伊留学生のための奨学金・コロナ禍下での日伊学生の支援等・EPA来日看護介護士への応援・等々。

以上

【付録】

論文・小論文・随筆・考察・紀行文・感想文或いは講演等をお願いしたい方々、私の存知上げている範囲内で、私の勝手に僭越恐縮ながら、思いつくまま、順不同で)

小原さんの向学心・人生訓・高齢の地方議員の挑戦・庶民の民意の発信の方法・何故募集人員増員なのか・会員の活躍紹介等々。 宮崎さんの香料諸島と日本人の海外進出等。 内原さんの日本企業がインドネシアで頑張るためには等。 岡崎の丹羽さんのアジア4か国に駐在して・インドネシア等で日系企業や日本人のありかた・日本のキリスト教の歴史・等々。 岐阜の丹羽さんの最近のインドネシアの若者に接して等。 泉さんのJETROと最近のインドネシア等。 滝口さんのUSAの課題と日系企業について等。 西田さんの暴徒との遭遇とJCC会長の体験談・海外工業の重要性について・等々。 滝本さんの中東戦争体験談・スハルトの経済発展政策の光と影・企業の企画部業務部のあり方・等々。 金井さんの外国人の日本語教育について等。 佐々木さんのGrup sanggarの活動と活躍・最新のインドネシア語・インドネシアとの交流等。 立川さんの来日インドネシア人と日本の入国管理について等。 井上さんのインドネシアとマレーシアの言語と性格考え方等海外経験について等。 林さんの海外経験談・日本の宗教や仏教について・コロナ対策について等々。 石川さんのインドネシア木材について・大型クルーズ船について・ボランティア活動について等々。 大角さんのgroupmailの現況と苦労話等。(まだありますが、紙面の関係でこの辺まで)